

科目名	在宅看護方法 I (対象別看護) In-Home Nursing I		担当教員 (研究室番号)	日比野 直子 (406)		教員への連絡方法 (メールアドレス)	日比野 : naoko.hibino@mcn.ac.jp					
履修年次	2年次 後期	科目 区分	専門科目・広域看護学		選択 区分	必修	単位数 (時間)	1(15)	授業 形態	講義	科目等 履修生	否
											オプショナル	否
科目 目的	事例をもとに、多様な療養児者の身体的・精神的状況とその家族の生活について理解を深め、在宅での支援に必要な看護技術や社会資源について学ぶ。											
ディ プロ マ ホ リ ン (DP)	主要なDP	E 看護専門職者としての役割を認識し、看護の実践に活用するための専門的知識を身につけている。 (知識・理解)										
	関連する DP	F 人々の健康的な生活を支援するために、必要な情報を様々な方法により収集する技能を身につけている。 (思考・判断)										
		G 身につけた知識を基盤に、収集した情報を科学的・論理的に分析し、人々の健康に関する課題を把握する能力を身につけている。(思考・判断)										
到達 目標	1. 在宅において医療や看護を提供するにあたり、必要となる知識や技術について説明できる。 2. 対象に応じた社会資源の内容や活用方法について説明できる。											
成績評価方法 (基準)	100点満点(小テスト24点、課題レポート・事前課題32点、ルーブリック評価20点、授業参加状況・グループワーク参加度24点)からの減点方式とし、ポートフォリオにより総合的に評価する。授業の2/3の出席をもって評価の対象とする。遅刻3回をもって欠席1回とみなす。出席把握は、授業開始時に実施する小テストにて行う。											
再試験の有無と 基準等	科目の合格結果で不合格となった場合には、当該学生からの申請があれば面談を実施する。再試験はない。											
教科書	ナーシンググラフィカ 在宅看護論② 在宅療養を支える技術 メディカ出版											
参考書等	家族看護を基盤とした在宅看護論 I 概論編・II 実践編 日本看護協会出版会											
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待	授業中に、講義内容に関連する問題提起を行い、自身が考えたことを発言したり記述していただきます。模擬事例やDVDの視聴を通して、在宅療養者と家族の生活を捉え、支えることの重要性や多職種連携の必要性について考えてみてください。											
備考	在宅看護学概論の単位を履修していなければ受講できない											
回	学習項目					学習内容					主担当 教員	授業 方法
1回	在宅療養生活を支える基本的な技術					在宅療養者とその家族を一つの単位として捉えることの重要性を学ぶ。在宅療養生活を支える基本である「食」「排泄」「清潔」「呼吸」「睡眠」「コミュニケーション」に関する看護技術を学ぶ。					日比野	講義
2回	療養場所の移行に向けた看護					在宅療養者と家族の意思決定支援と調整 退院支援・退院調整に関わる医療機関との連携について学ぶ。					日比野	講義
3回	在宅で行うケアの実際 1					在宅での栄養ケアとマネジメント(栄養のアセスメント・食欲低下時・下痢や便秘時のケア・嚥下障害・脱水時のケア)					日比野	講義
4回	在宅で行うケアの実際 2					在宅での皮膚のアセスメントとケア(褥瘡予防とケアと評価ツール・失禁時のケア・掻痒感や乾燥状態のケア・浮腫のケア・糖尿病の足病変・白癬のケア)					篠原	講義
5回	在宅で行うケアの実際 3					在宅での呼吸のアセスメントとケア(呼吸管理・排痰・吸引・吸入など・呼吸困難時や緊急時の対応)					日比野	講義
6回	対象別在宅看護の実際 1					在宅療養しながら生活する子どもと家族を支える看護について学ぶ。(先天性疾患により治療を受けながら地域で成長していくケース)					日比野	講義
7回	対象別在宅看護の実際 2					高齢者夫婦の世帯や単身世帯、日中独居などを支える看護について学ぶ。(高齢者に多い慢性疾患・認知症などの治療を受けながら地域で生活するケース)					日比野	講義
8回	対象別在宅看護の実際 3					在宅で終末期を迎える療養者と家族を支える看護について学ぶ。(在宅で行われる緩和ケアと看取り・訪問看護師によるグリーフケア)					日比野	講義

## 学 習 課 題

1~8回共通の事前課題：学習項目の内容について教科書や関連するテキストを一読して講義に臨んでください。  
 課題提出①：2回目講義終了後 在宅療養生活環境について教科書などを参考にし「健康」「安全」「住まい方」を視点としてまとめる。  
 課題提出②：6回目講義終了後 提示する事例について、参考・引用文献を用い自分の考えをまとめる。  
 事前課題：第3・4・5回講義に関するキーワード「食欲低下」「下痢」「便秘」「嚥下障害」「褥瘡」「尿・便失禁」「スキントラブル 乾燥・掻痒感・白癬」「浮腫」「糖尿病による足病変」「排痰」「呼吸困難」が起こる原因とその予防とケアについてまとめておく。(提出は不要ですが、授業中には各個人の事前課題をもとにグループ討議をします)  
 毎講義前に小テストを行う。  
 準備するもの：紙フラットファイル(A4縦、2穴)、インデックスシール(単元の見出しをつけるためのもの)  
 配布資料のファイリング方法：講義で配布する資料、課題、事例と記録用紙一式、小テスト、自己学習した資料等をファイリングして、学習成果を効果的に整理すること。

## 実務経験を活かした教育の取組

・担当教員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。